

'89デザイナー基本構想



昭和63年8月



1. デザインイヤーの趣旨

1990年代を眼前にした今日、私達は時代の扉を開きつつあります。

私達の生活では、大量生産・大量消費を特徴とする産業経済の発展を背景として、「もの」の量的充足が進みました。今や、私達は、このような「もの」の充足の上に立って、「心」を充足する快適で潤いのある生活を希求しています。

他方、これを支える産業経済も、国際経済秩序の激変の中で、急速な構造変化にさらされています。

このような中で、従来にも増して「創造力」の重要性が高まっています。国際的な人の交流機会が増大する中で、我が国に期待されるのは、世界に誇れる「クリエイティブ(創造的)」な活動の展開ではないでしょうか。

このような時代の息吹きの中で生活と産業のインターフェースであるデザインの可能性が問われています。

「デザイン」とは、人間の創造力、構想力をもって生活、産業、環境に働きかけ、その改善を図る営みと要約できます。つまり、人間の幸せという大きな目的のもとに、創造力、構想力を駆使し、私達の周囲に働きかけ、様々な関係を調整する行為を総称して「デザイン」と呼んでいます。

従って「デザイン」は、私達の日常生活を支える基本的な思想であると同時に、生活を基軸として技術、産業、地域社会、国際社会を結ぶ重要な絆としての役割を果たすことが期待されているといえましょう。

しかし、このような期待に「デザイン」が応えていくためには、単に従来のデザインの延長線上で考えていくことでは不十分であり、新たな飛躍が求められます。

デザインイヤー運動は、このような認識を踏まえ、「デザイン」を通じて新しい時代における生活と産業、ひいては文化のあり方を、国民各分野で問い直そうとする運動です。

1990年代を準備する年である1989年こそ、このような運動展開にふさわしい年といえましょう。

2. デザインイヤー運動展開の骨格

デザインイヤー運動は、「デザイン」を通じて私達の生活と産業と文化のあり方を国民各分野で問い直そうとする運動です。

デザインイヤーでは、

- ① デザインを通じて国民生活の質的向上を図る
- ② デザインを通じて地域活性化を図る
- ③ デザインを通じて産業の高度化を図る
- ④ デザインを通じて国際社会に貢献する活動を展開します。

① 国民生活の質的向上を図る活動

私達の生活は、数多くのモノやサービスであふれています。これらのモノやサービスを適切に選択し、豊かな生活に結びつけていくために、私達一人一人の生活に係るデザインに対する意識が不可欠な時代になってきました。デザインイヤーでは、私達一人一人のデザイン意識を深め、豊かな生活を築いていくことをめざすとともに、産業や地域に対しては、人々の要求に十分に応えうる、より創造性の高いモノやサービスを提供するよう問いかけます。

② 地域の活性化を図る活動

地域の活性化は、個性あふれる地域づくりの上に実現されます。地域には、地域に根ざした地域産業や伝統的な工芸が存在しますが、今後厳しさを増す環境の中で、その高度化を図るため、デザインという視点は不可欠です。また、地域住民の生活環境を改善していく上で、施設や商店街のデザインの改善が欠かせません。更には、地域開発計画にもより大きな視点でデザインが必要といえます。

③ 産業の高度化を図る活動

国際経済の大きな変容の中で、我が国産業は、従来に増して一層知識集約化をせまられます。デザインイヤー運動は、企業の経営戦略としてデザインを活用する活動を推進するとともに、中小企業に対してはデザインを活用する機会をより拡大する活動をめざします。

④ 国際社会に貢献する活動

1990年代の日本に求められるのは、世界の国々の歴史と文化を理解しつつ、世界に対して、日本として誇れる個性を問いかけることではないでしょうか。創造性の高いモノやサービスの提供が国際社会における我が国の役割であることを強くアピールすると同時に、発展途上国の開発を支援する活動の展開をめざします。

デザインイヤー運動を通じて、デザインの源となる創造力、構想力の涵養、デザインにおける人・組織・情報のネットワーク化が推進されますが、これを基礎として、1990年代におけるデザインのインフラストラクチャーの整備といった視点もデザインイヤー運動の中で考えていくことも必要です。

3. デザインイヤー運動展開のしくみ

デザインイヤー運動は、「デザイン」を通じて新しい時代における生活と産業と文化のあり方を、国民各分野で問い直そうという運動です。従って、運動に参加する各事業主体は、デザインイヤーの趣旨に賛同し、デザインイヤーの期間(89年4月～90年3月)中に、それぞれの立場から主体的に運動に参加し、事業を実施することが期待されます。

デザインイヤーという枠組みは、これらの諸事業の相乗効果を高めることに狙いがあります。

(1) デザインイヤーの推進母体

デザインイヤーの推進母体として、国民各分野から広く支持される組織「デザインイヤーフォーラム」を設置します。

デザインイヤーフォーラムは、生活、地域、産業、国際社会などの領域で「デザイン」を通じて取り組むべき課題を国民各分野へ提示します。これは別図の中に示されています。

デザインイヤーフォーラムは、地方自治体、報道機関、経済団体、デザイン振興機関、デザイナー団体、企業等各事業主体にデザインイヤー運動への参加を求めます。

(2) デザインイヤー運動への参加

各事業主体は、自らの主体的意思と企画をもってデザインイヤー運動に参加することを期待します。

参加事業は、デザインイヤー運動の趣旨に合致する事業であればデザインの分野及び事業の種類を問いません。

デザインに係る分野は、プロダクト(製品)、ファッション、クラフト、インテリア、グラフィック、パッケージから商空間設計、都市環境、地域開発等多面に亘っています。「デザイン」は、人の物質的、精神的な諸要求を十分に満足させる調和のある人工的環境を形づくることを意図する創造的活動と定義されます。このような概念でとらえられるものであれば、あらゆるデザインの分野を視野に入りたいと考えます。また、事業の種類も、展示(博覧会、展示会等)、会議(セミナー、シンポジウム等)、競技会(コンペティション、コンクール等)、計画作成(地域づくり、街づくり等)、具体的な開発(製品開発、地域開発等)、広報等多様なものが考えられます。

「デザイン」の可能性を世に問い、更に実証していくためには、イベント(催事)とプロジェクト(実践活動)の効果的な複合が重要です。またメディアのもつ大きな力を忘れてはなりません。

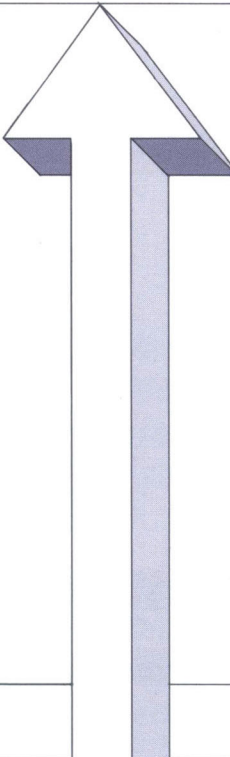
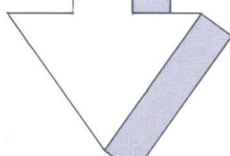

別図では、デザインイヤー運動の中で展開されることが期待される参加事業のイメージの理解を深めるため、既に企画、準備が進んでいる事業、実施が確実な事業も含め、各課題毎に事業例を示してみました。勿論、参加事業は、別図記載の事業例に限られるものではありません。世界デザイン会議、世界デザイン博覧会等既に企画、準備が進んでいる事業については、デザインイヤーの趣旨に沿った事業展開を期待します。国際デザイン展、国際デザインアワード、日本文化デザイン会議、国際デザインコンペティション等の実施が確実視される事業は、デザインイヤーの趣旨に沿った企画を期待します。

言うまでもなく、デザインイヤー運動は、このような既に実施が確実となっている事業で終わるものではありません。否、むしろ、本構想を契機に、「デザイン」の課題を考え、実践する参加事業の輪がもっともっと広がる時、それは成功するでしょう。

デザインイヤーへの参加は、デザインイヤーフォーラムへの登録の下に行われ、「89 デザインイヤー参加事業」の名称の他、デザインイヤーの「マーク」及び「ロゴ」の使用が認められます。デザインイヤー参加事業に対しては、全国的な立場から指導、ノウハウの提供、広報等による相乗効果の拡大を図ります。

デザイナー運動展開のイメージ

提唱	課題	期待する事業例 イベント
第一回 デザイナー フォーラム	1. 国民生活の質的向上 (1) デザイン意識の高揚 (2) 優れたデザインの提示・普及 (3) デザインの適用領域の発見 (4) 公的空間のデザインの改善 (5) 子供の生活観の育成支援 (6) デザイン教育・研究の高度化 (7) デザイン評論の活性化	文化デザイン会議 全国巡回展 国際デザイン展 国際デザイン交流展 国民デザイン賞 世界デザイン博覧会 環境提案事業 学童デザインコンクール デザイン教育会議 国際デザインアワード
	2. 地域の活性化 (1) デザインを通じた地域産業の活性化 (2) デザインを通じた地域文化の高揚 (3) 地域開発におけるデザインの導入 (4) 地域へのデザイン導入推進組織の整備	
	3. 産業の高度化 (1) 独創性あるデザインの提供 (2) 企業のアイデンティティの確立・提示 (3) 経営戦略へのデザインの位置付け (4) 異分野交流の推進 (5) 中小企業へのデザインの導入 (6) デザイナーの経営基盤の強化	近未来デザイン開発プロジェクト 国際デザインコンペティション デザインマネジメント国際会議 中小企業デザインマネジメント賞 中小企業国際化振興事業
	4. 国際社会への貢献 (1) 国際交流の推進 (2) 発展途上国に対する経済協力の推進	世界デザイン会議 発展途上国デザイン会議
88FY	準備期間	89FY

プロジェクト	メディア	総括	目的
<p>産学協同プロジェクト</p>			
<p>地域開発プロジェクト 地域デザインセンター設立支援</p>	<p>デザイナー特番・特集</p>	<p>第二回デザイナーフォーラム</p>	<p>生活と産業 と文化の 再構築</p>
<p>協賛商品</p>	<p>協賛広告</p>		
<p>デザイナー共同化プロジェクト</p>			
<p>デザイン研修生受入れ 専門家派遣</p>			
<p>デザインインフラの整備</p> 			
<p>デザイナー</p>			<p>90FY</p>

〈期待する事業例解説〉

① 国民生活の質的向上を図る活動

① 「国民デザイン賞(仮)」

国民生活に多面的に係るデザインの姿を「国民デザイン賞」の設定によって浮彫りにすることにより、国民各層のデザインに対する理解を促進します。デザイナー宣言時に広く一般に提示し、デザイナーの諸活動を通じて対象となるデザインを収集し、デザイナーの推進母体である「デザイナーフォーラム」の名において、これを発表します。

② 「世界デザイン博覧会」

「ひと、夢、デザイン—都市が奏でるシンフォニー」をテーマに、国際社会における我が国の果たすべき役割、今後の生活像などをデザインを通じてわかりやすく国民一般に示すことにより、国民各分野のデザインに対する理解を促進します。

主 催：(財)世界デザイン博覧会協会
会 期：昭和64年7月15日～11月26日
参加予定：600万人
開催都市：名古屋

③ 「国際デザイン展」

国内外の優れたデザインに関する展示を通じて、人々のデザインに対する理解と関心を深めるとともに、デザインに関する交流を推進します。

主 催：(財)国際デザイン交流協会
開催都市：大阪

④ 「国際デザインアワード」

世界のあらゆるデザイン分野においてその発展向上に著しい貢献をした人々や団体などを表彰します。

主 催：(財)国際デザイン交流協会
開催都市：大阪

⑤ 「日本文化デザイン会議」

21世紀の日本のあり方を多様な方面の有識者によるシンポジウムによって「文化デザイン」という視点から討議し、様々な提案を行います。

主催：日本文化デザイン会議

⑥ 「国際デザイン交流展」

各種のデザインコンペティションで受賞した国内外の優れたデザインの展示及び学生等によるデザイン提案により、中小企業へのデザインに対する理解及びデザインマインドの浸透を推進します。

主 催：国際デザイン交流展 いしかわ開催委員会
会 期：昭和64年10月(予定)

開催都市：金沢

⑦「全国巡回デザイン展」

世界各国のグッドデザインを一堂に集め、全国を巡回展示することにより、国際社会を前提とした生活像(ライフスタイル)を考える場を提供します。

⑧「環境提案プロジェクト」

私的生活空間及び公的空間を対象に、デザインを通じて改善と創造を提案するプロジェクト。

具体的には各地方自治体、各地商工会議所、青年会議所、商工会等に呼びかけ、各地域ごとにテーマを設定し、コンペティション等により改善、創造に取り組むプロジェクトを推進します。

⑨「(小・中学生を対象とした)デザインコンクール」

教育の場でデザインの重要性と生活への係りを具体的に認識してもらうために、小・中学生を対象としたデザイン提案を全国的に募集し、表彰します。

(例：「教室の改善」提案など)

⑩「デザイン教育会議(仮)」

デザインコースが設置されている大学、短期大学、専修学校等の教育者、企業内デザインマネージャー等に呼びかけ、1990年代のデザイン教育のあり方を考える会議を開催します。

⑪「産学協同プロジェクト」

企業、自治体、デザイン教育を行う教育機関に呼びかけ、一体となって特定の課題を実践的に解決することにより、新たな人材の育成を図るとともに、デザインに対する国民各分野の理解を促進します。

⑫「デザイン特集番組、記事等の提案」

テレビ、新聞、雑誌等のジャーナリズム、百貨店等流通関係に呼びかけ、デザインを通じて生活の質を向上させる活動(具体的な番組、記事、シンポジウム、展示会など)を展開します。

② 地域活性化を図る活動

①「地域開発プロジェクト」

地域の自治体、商工会議所等に呼びかけ、デザインを通じて「地域おこし、産業活性化」を図るプロジェクトを推進します。

具体的には、各地域毎にテーマ(「商店街活性化」、「景観照明」、「地域工芸活性化」等)を設定し、デザイン教育機関等の協力を得て、提案を行います。

なお、デザインイヤー期間中に、地域開発プロジェクト、環境改善プロジェクト

を実施している地域を結び、「駅伝シンポジウム」を開催することも考えられます。

②「地域デザインセンターの設立支援」

地域社会と産業の発展に貢献するデザインセンターの設立を地方自治体等に呼びかけ、個性ある地域のデザインセンター設立を支援します。また、これらデザインセンター間のネットワーク化を推進します。

③産業の高度化を図る活動

①「近未来デザイン開発プロジェクト」

主要企業と、内外一流デザイナーの協力により、近未来の生活像をデザイン(商品提案)を通じて消費者に提示することにより、生活像(ライフスタイル)を描く手がかりを与え、企業の開発活動の一層の高度化を促進します。

②「国際デザインコンペティション」

各国のデザイナーの参加によるデザインコンペを通じて、国際化時代、高度情報化社会に対応したデザイン能力を高めるとともに、この結果を広く一般に提示することにより、デザインに対する国民各分野の理解を促進します。

主 催：財国際デザイン交流協会

開催都市：大阪

③「中小企業国際デザインフェア」

一定のテーマのもとに、国内外の中小企業製品を、その製品の主たる産地の都道府県に集め、コンクール、展示、国際デザインシンポジウム等を開催し、中小企業のデザインの高度化と地域中小企業の国際化を推進します。

主催：(当該都道府県内の団体による)開催委員会

④「デザインマネージメント国際会議(仮)」

国際化社会を前提とした企業のアイデンティティ(個性)形成に向けて、デザインをどう多角的に活用すればよいかについて、主要企業経営者、デザインマネージャーを中心に検討します。

デザインマネージメントインスティテュート(米国ボストン)等との協力により、65年2月～3月頃開催を予定します。

⑤「中小企業デザインマネージメント賞(仮)」

デザインを通じて企業の発展を図った中小企業を表彰することで、全国中小企業のデザインに対する意欲を高めます。評価は、グッドデザイン商品選定事業(Gマーク)を基盤として行います。

⑥「デザインイヤー協賛広告・商品」

デザインイヤー協賛広告・商品を各企業に呼びかけ、企業の経営姿勢を消費者に直接語りかける活動を推進することで、企業のデザインマインドを高めるとも

に、消費者のデザインに対する理解をより一層深めます。

⑦「フリーランスデザイナーの共同化プロジェクト」

フリーランスデザイナー(デザイン事務所)のデザイン活動活性化をめざし、共同化(共同施設の設置等を含む)を推進します。

④ 国際社会に貢献する活動

①「世界デザイン会議」

「かたちの新風景—情報化時代のデザイン—」をテーマに、世界中のデザイナー、デザイン関係者が一堂に結集し、来たるべき時代へ向けてデザインの果たすべき役割を多角的に検討します。

主 催：世界デザイン会議運営会

会 期：昭和64年10月18日～10月23日

開催都市：名古屋

②「発展途上国デザイン会議(仮)」

発展途上国の生活と産業を発展させ、アイデンティティを形成するためのデザインの導入、方法論などについて、行政官、デザイン教育関係者、デザイナーが集まり、シンポジウムを開催します。同時に「発展途上国グッドデザイン展(仮)」を併催します。

③「デザイン研修の受け入れ、専門家の派遣」

デザイン関係機関、団体に呼びかけ、発展途上国等と我が国との効果的なデザイン交流・協力システムの構築を推進します。

⑤ その他

①「デザイン・インフラ開発プロジェクト」

人、組織、情報の新たなネットワークを基に、生活者、産業界、行政等がデザインに係る研究・教育、情報の受発信、創造活動等を行いやすい環境づくりをめざし、そのために必要なデザイン・インフラの整備を検討します。

4. デザインイヤーの推進組織

(1)「'89デザインイヤー運動」の推進母体は、国民各分野によって広く支持される組織である必要があります。

このため、国民各分野(経済、社会、技術、文化、地域、デザイン等)のデザインマインド豊かな有識者からなるデザインイヤーフォーラムを組織し、英知を結集するとともに、デザインイヤー運動の推進母体とします。

デザインイヤーフォーラムは、次の活動を行います。

- ① '89デザインイヤーを主唱します。
- ② '89デザインイヤー運動の中で行われる諸事業を総括します。
- ③ 「国民デザイン賞(仮)」等を直接主催します。
- ④ '89デザインイヤー参加事業を登録します。
- ⑤ デザインイヤーフォーラムのメンバーを中心に、独自の活動(デザインイヤー記念出版等)を展開し、デザインを通じて解決すべき様々な課題を提示、提案します。
- ⑥ '89デザインイヤーの終了に際し、運動の総括的評価を行います。

(2)デザインイヤーフォーラムの下に、'89デザインイヤー参加事業の登録、広報等の事業を審議・決定する委員会を設置します。

(3)事務局は、(財)日本産業デザイン振興会に置き、各事業主体が自主的に運営する事業活動に対し、デザインイヤーの趣旨に沿った調整と支援を行います。

デザインイヤーフォーラム事務局

東京都港区浜松町2-4-1

世界貿易センタービル別館4F

財団法人日本産業デザイン振興会内

TEL:03-435-5633 FAX:03-432-7346